

教材・支援機器活用実践事例(特別支援学校版)

	実践名(実践年度)	ドローンをういた人文字づくり(平成30年)
参加する 授業に ついて	教科名等 (該当する教科名等を選択。当てはまらない場合はその他を選択し、次の単元・題材名の欄に記入。)	☐ 国語 ☐ 社会 ☐ 算数/数学 ☐ 理科 ☐ 生活 ☐ 音楽 ☒ 図画工作/美術 ☐ 家庭/技術・家庭 ☐ 体育/保健体育 ☐ 道徳 ☐ 外国語/外国語活動 ☐ 総合的な学習の時間 ☐ 特別活動 ☐ 自立活動 ☐ 各教科等を合わせた指導 ☐ その他の教科 ☐ その他()
	単元・題材名	空から見たイメージをして文字を組み立てる
	授業の目標	・上空から見た自分や友達をイメージして文字の形ととることができる ・身体や物を活用して形を作ることができる
	観点別学習状況の評価の観点 (教科の特性により設定した観点がある場合は「その他」を選択し記載。)	☐ 「知識・理解」 ☐ 「技能」 ☒ 「思考・判断・表現」 ☒ 「関心・意欲・態度」 ☐ その他()
	自立活動の要素	☐ 健康の保持 ☐ 心理的な安定 ☐ 人間関係の形成 ☐ 環境の把握 ☒ 身体動き ☒ コミュニケーション
学習 (集団) の実態	学部・学年・人数	☐ 通常の学級 ☐ 通級による指導 ☐ 特別支援学級 ☒ 特別支援学校 ☐ 就学前 ☐ 小学生 ☐ 中学生 ☒ 高校生以降 ☐ 特定されない 16人
		対象の障害 ☐ 視覚障害 ☐ 聴覚障害 ☒ 知的障害 ☐ 肢体不自由 ☐ 病弱・身体虚弱 ☐ 言語障害 ☐ 自閉症 ☐ 情緒障害 ☐ LD(学習障害) ☐ ADD(注意欠陥/多動性障害) ☐ その他
	子どもの課題 (特性・ニーズ)	☒ 聞く ☒ 読む ☒ 見る ☒ 話す ☒ 書く ☒ 運動と姿勢 ☒ 計算する ☒ 推論する ☐ 日常生活活動 ☒ 社会性・コミュニケーション ☐ 不注意 ☐ 多動性・衝動性 ☒ 覚える・理解する ☐ 時間的・空間的・人的交流の制約 ☐ その他 全ての生徒は軽度の知的障害がある生徒である。自己肯定感が低く自信を持って自己表現をすることが難しい。言語でのやり取りが可能であるが、コミュニケーションにおいて一方的なことがあり、友達同士での関りに課題のある生徒が多い。生徒の課題としては、他者視点を持ち自分を客観視することである。失敗してもやり直しができる課題などを行いながら、自分の表現を行ったり、他者と作り上げていく活動を行いながら自己肯定感を高めていく学習が必要である。
ICT活用 について	使用した支援機器・教材の名称 (使用した支援機器・教材の名称を記載。なお、特定の製品に特化した実践の場合は製品名を記載。)	iPhone、Spark (DJI drone)
	活用のねらい (概要)	A コミュニケーション支援(☐ A1意思伝達支援 ☐ A2遠隔コミュニケーション支援) B 活動支援(☐ B1情報入手支援 ☐ B2機器操作支援 ☐ B3時間支援) C 学習支援(☒ C1教科学習支援 ☐ C2認知発達支援 ☐ C3社会生活支援) ドローンをういて上空から写真を撮ることで、俯瞰した自己イメージを持つことが出来ると考えた。簡単なカタカナからはじめ、複雑な漢字を形作っていく中で、身体の使い方や持っているものを表現に活用し表現していくことを想定している。
	活用方法	生徒が人文字を作り、その確認を行う際にドローンで撮影を行った。iPhoneの画像を生徒が見ながら、修正点を生徒たちに判断させ何度か撮り直しを行った。
効果・評価	ICTを活用した授業での子どもの様子や変容および授業の評価	ドローンに対する興味関心のある生徒は多く、どのように見えるのかを楽しみながら活動を行った。授業を進めていく中で、ドローンを飛ばすタイミングなどを生徒でとることができ、表現の一つとして活用することが出来ていった。徐々に文字を複雑にしハードルを上げていったが、俯瞰した視点を意識しながら人文字を作り上げることが出来ていった。生徒の話し合いの中で、試行錯誤して文字を作り上げることが出来ていった。
資料	図・写真・表等 (生徒の写真は個人情報公開の確認を取っているものとする。)	  